

- 問1 歴史上の出来事を並べた年表において、北条政子の演説を経て幕府側が勝利した「承久の乱」の直後、13世紀前半に京都に設置された組織として適切なものはどれですか。この組織は、朝廷の監視や西国の武士の統制を目的としていました。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 問注所 2. 六波羅探題 3. 侍所 4. 評定衆
- 問2 鎌倉幕府から江戸時代にかけて、将軍や戦国大名などの主君が、家臣に対してそれまでの領地の支配を認めたり、新しい土地を与えたりする一方で、家臣は主君のために軍役や番役などの奉公を行うという、土地を仲立ちとした結びつきを何といいますか。 (2023年 広島県公立入試 類似)
1. 中央集権 2. 公地公民 3. 班田収授 4. 主従関係
- 問3 13世紀におけるモンゴル帝国と日本の関係について、当時の社会情勢を含めて説明した文として正しいものはどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
1. 元軍の侵攻を防いだ功績として、鎌倉幕府は恩賞を求める武士たちに十分な土地を分け与えた。 2. 朝鮮半島の高麗と結んだ日本は、モンゴル帝国の本土を攻撃するために大陸へ軍を派遣した。 3. フビライ・ハンが国号を元と定め、服属を拒否した日本に対して大規模な軍隊を送り込んだ。 4. 日本への侵攻を主導したのは中国の明王朝であり、鎌倉幕府は対等な貿易を条件に和睦した。
- 問4 鎌倉時代に設置された「地頭」と「守護」の配置単位の違いについての説明として、正しいものはどれか。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
1. 地頭は主に西日本に置かれ、守護は東日本のみに置かれた。 2. 地頭は荘園や公領ごとに置かれ、守護は国ごとに置かれた。 3. 地頭は幕府の所在地である鎌倉に置かれ、守護は地方に置かれた。 4. 地頭は朝廷の支配下に置かれ、守護は幕府の支配下に置かれた。
- 問5 11世紀末から約200年にわたって断続的に行われた十字軍の遠征が、中世ヨーロッパの社会や文化に与えた影響や背景についての説明として正しいものはどれですか。 (2021年 徳島県公立入試 類似)
1. イスラム勢力の中心地であるメデynaを占領し、キリスト教の領土を西アジア全域に広げること成功した。 2. 遠征が軍事的に完全な成功を収めたことで、ローマ教皇の権威はそれ以降さらに強固なものとなった。 3. 遠征を通じてイスラム世界の高度な学問や技術が伝わり、のちのルネサンスへとつながる文化交流のきっかけとなった。 4. 遠征によって地中海貿易が衰退したため、ヨーロッパ諸国の国王は新しい航路を求めて大航海時代を開始した。
- 問6 北条泰時が制定した御成敗式目の中で、諸国の守護に課せられた職務として正しいものはどれですか。当時の条文には、御家人に京都の警備を命じることや、重大犯罪の取り締まりについて記されています。 (2021年 徳島県公立入試 類似)
1. 朝廷の政治を監視し、天皇の代替わりを管理する。 2. 諸大名の参勤交代を監督し、江戸の治安を維持する。 3. 御家人に京都の警備（京都大番役）を命じ、謀反人や殺害人などを取り締まる。 4. 全国の田畑の面積を調査し、農民から納められる年貢の額を決定する。
- 問7 源頼朝が幕府を開いた鎌倉は、防御に適した地形を利用して都市が築かれました。三方を山に囲まれ、南が海に面したこの土地において、外部との交通路として山を切り開いて設けられた通路を何と呼びますか。 (2022年 山口県公立入試 類似)
1. 宿場 2. 関所 3. 切通し 4. 本陣
- 問8 武士として初めて政治の実権を握った平氏が、従来の貴族のように土地（荘園）からの収入だけに頼らず、日宋貿易を積極的に推進した最大の理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。 (2022年 鳥取県公立入試 類似)
1. 国内の金や銀が不足していたため、宋から金や銀を輸入して国内の財政を立て直すため 2. 大陸との貿易で得られる莫大な利益を、一門の軍事力や政治力を維持するための経済的基盤にするため 3. 宋との軍事同盟を強化することで、対立する源氏を武力ではなく外交によって制圧するため 4. キリスト教の布教を認める代わりに、最新の武器である鉄砲や火薬を優先的に手に入れるため
- 問9 鎌倉時代に成立した『平家物語』の特徴と、その文化的な背景について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2021年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 聖武天皇が建立した国分寺で、僧侶が仏教の経典とともに暗唱するために作成された叙事詩である。 2. 天武天皇が律令国家の正当性を示すために編纂させた歴史書であり、坂上田村麻呂の功績を記している。 3. 平氏の繁栄から滅亡までの過程を描いた軍記物語であり、文字が読めない人々にも琵琶法師の語りを通じて広く普及した。 4. 律令国家から武家社会への移行を批判し、貴族による政治を再興させることを目的として書かれた政治書である。
- 問10 鎌倉幕府が元寇の後に「徳政令」を発令せざるを得なくなった背景と、その影響について述べた文として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2023年 埼玉県公立入試 類似)
1. 分割相続の繰り返しによって領地が細分化した御家人たちの土地を統合し、一族の団結力を高めて元軍の再来に備えるために強制的に行われた。 2. 承久の乱の後に没収した上皇方の所領を御家人に公平に分配するため、北条泰時が武士独自の慣習に基づいて裁判の基準とともに制定した。 3. 元寇による軍費を調達するために、全国の農民から一時的に税を免除する代わりに土地の所有権を幕府に返上させる目的で実施された。 4. 防衛戦であったために獲得した土地が少なく、十分な恩賞与えられなかったことで困窮した御家人の不満を鎮めるために出されたが、経済を混乱させた。
- 問11 鎌倉時代の中期ごろまで武士の間で行われていた、一人の父親が持っていた広い領地を複数の子供たちにそれぞれ小さな区画として引き継がせる相続方法を何といいますか。 (2026年 山口県公立入試 類似)
1. 検地 2. 分割相続 3. 永年私財法 4. 単独相続
- 問12 鎌倉時代には都市開発が進んで木材の需要が高まり、村々では「惣」による森林管理が行われるなど、社会が大きく変化しました。こうした時代背景の中で、道元が説いた「修行のあり方」として最も適切な記述を選びなさい。 (2024年 長野県公立入試 類似)
1. 座禅によって自らの力で悟りを開くことを説き、厳しい修行を重視した。 2. 「南無妙法蓮華經」という題目を唱えることで、国家と人々が救われると説いた。 3. 加持祈祷を行い、現世での災いを除き幸福を得ることを説いた。 4. 念仏を唱えることで、阿弥陀如来によって極楽浄土へ導かれると説いた。
- 問13 鎌倉幕府が京都に六波羅探題を設置した目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 和歌山県公立入試 類似)
1. 後鳥羽上皇を中心とする朝廷の動きを常に監視し、西日本の武士に対する統制を強化するため 2. 室町幕府に対抗して、京都の治安維持と足利氏の動向を把握するため 3. 蒙古襲来に備えて、九州沿岸の警備と西国の御家人を指揮する拠点を確保するため 4. 全国の荘園や公領に配置された地頭の活動を監督し、年貢の徴収を円滑にするため

答え合わせ・解説

問1	答え 2 六波羅探題	承久の乱に勝利した鎌倉幕府は、戦後処理として後鳥羽上皇を隠岐に配流しました。さらに、二度と朝廷が幕府に反旗を翻さないよう、朝廷を監視し、あわせて西国の御家人を統制するために京都の六波羅に「六波羅探題」を設置しました。これにより、幕府の支配力は西日本にも強く及ぶようになりました。
問2	答え 4 主従関係	武士にとって自らの生活基盤である土地（所領）を主君に保障してもらうことは、一族の存続に関わる極めて重要なことでした。この主君による土地の保障や給与を「御恩」、それに対して家臣が命を懸けて戦うことを「奉公」と呼び、この双方向の契約的な結びつきが武士社会の根幹となりました。
問3	答え 3 フビライ・ハンが国号を元と定め、服属を拒否した日本に対して大規模な軍隊を送り込んだ。	モンゴル帝国のフビライ・ハンは朝鮮半島の高麗を服属させた後、日本にも服属を求めましたが、執権の北条時宗がこれを拒否したため侵攻を決定しました。なお、この戦いは防衛には成功したものの、恩賞として与える土地が不足していたため、幕府に対する武士たちの不満が高まる原因となりました。
問4	答え 2 地頭は荘園や公領ごとに置かれ、守護は国ごとに置かれた。	源頼朝が構築した支配体制において、両者は配置される範囲が異なります。地頭は、貴族や寺社の私有地である「荘園」や、国司が管理する「公領」という細かな土地単位ごとに配置されました。これに対し、守護は「国（令制国）」という大きな行政単位ごとに配置され、その国全体の軍事や警察を統括しました。いずれも幕府から任命された御家人がその任にあたりました。
問5	答え 3 遠征を通じてイスラム世界の高度な学問や技術が伝わり、のちのルネサンスへとつながる文化交流のきっかけとなった。	十字軍は回を重ねるごとに領土欲や商業的利益といった世俗的な目的が強まり、最終的には軍事的な失敗に終わりました。しかし、長期間にわたる遠征は東西の交流を活発にし、イスラム世界に保存されていた古代ギリシャの知識や優れた科学技術がヨーロッパに流入しました。これがのちの文化運動であるルネサンスの一因となりました。また、遠征の失敗は教皇の権威を失墜させることにもなりました。
問6	答え 3 御家人に京都の警備（京都大番役）を命じ、謀反人や殺害人などを取り締まる。	御成敗式目では、守護の権限を「大犯三箇条（だいばんさんかじょう）」と呼ばれる三つの職務に限定しました。具体的には、京都大番役の催促、謀反人の逮捕、殺害人の逮捕です。これは、守護が国司の権限を侵しすぎないように制限し、武士社会の秩序を保つ目的がありました。
問7	答え 3 切通し	鎌倉は北・東・西の三方を険しい山に囲まれ、南側が相模湾に面しているという、防御に適した「天然の要塞」のような地形をしていました。この閉ざされた地形において、軍事的な防衛力を維持しながら物資の運搬や人の往来を可能にするため、山の一部を削って造られた狭い道が「切通し」です。鎌倉七口と呼ばれる代表的な通路などが知られています。
問8	答え 2 大陸との貿易で得られる莫大な利益を、一門の軍事力や政治力を維持するための経済的基盤にするため	平清盛は、それまでの公家が重視していた土地の支配による収入だけでなく、海外貿易による商業的な利益に注目しました。宋との貿易で得た富を背景に、急速に中央政府での地位を固め、平氏一門による独裁的な政権を築き上げることができました。なお、鉄砲の伝来は戦国時代であり、当時はまだ伝来していません。
問9	答え 3 平氏の繁栄から滅亡までの過程を描いた軍記物語であり、文字が読めない人々にも琵琶法師の語りを通じて広く普及した。	『平家物語』は「祇園精舎の鐘の声…」で始まる、平氏の興亡を描いた軍記物語です。鎌倉時代、視覚に障害のある琵琶法師たちが、琵琶の伴奏に合わせてこの物語を語り歩く（平曲）ことによって、武士や民衆の間に広く浸透しました。これは、当時の仏教的な無常観や武士の生き様を反映した武家文化の代表例です。
問10	答え 4 防衛戦であったために獲得した土地が少なく、十分な恩賞を与えられなかったことで困窮した御家人の不満を鎮めるために出されたが、経済を混乱させた。	元寇での戦功に対する恩賞不足に加え、貨幣経済の浸透や分割相続によって御家人の経済状況は悪化していました。幕府は借金や帳消しや領地の返却を命じる徳政令で救済を試みましたが、これにより金銭の貸し借り（金融）が停滞し、かえって経済が混乱して幕府への信頼を失墜させる原因の一つとなりました。
問11	答え 2 分割相続	鎌倉時代の武士の世界では、領地を子供たちに分けて継承させる「分割相続」が一般的でした。しかし、この方法を何代も繰り返すと、一人ひとりが受け継ぐ領地は次第に細分化されて狭くなっていきます。これが、御家人の経済的な基盤を弱める大きな要因となりました。
問12	答え 1 座禅によって自らの力で悟りを開くことを説き、厳しい修行を重視した。	鎌倉新仏教の一つである禅宗は、それまでの貴族仏教のような学問や儀式ではなく、実践的な修行を重視しました。道元は「只管打坐（しかんたざ）」、すなわち余計なことを考えず、ひたすら座禅に打ち込む姿勢を強調しました。この自己を厳しく律する精神が、当時の武士たちの気風に受け入れられました。
問13	答え 1 後鳥羽上皇を中心とする朝廷の動きを常に監視し、西日本の武士に対する統制を強化するため	承久の乱は、朝廷が幕府を倒そうとして失敗した事件です。二度とこのような事態が起きないよう、幕府は朝廷がある京都に拠点を置き、天皇や上皇の行動を厳しくチェックしました。また、乱の結果として没収した領地が西日本に多く存在したため、それらを管理し、現地の武士たちを支配下に置く役割も果たしました。